

3・11の時の大きな課題はトイレでした。避難所のトイレが溢れ、異臭が漂い、利用者が我慢する
或いは避難所の外で済ます、これではストレスが増加してしまいます。

大井地区では、最もラックスできる場所は自宅のトイレや風呂であることを前提に防災基本計画
を改訂しています。

長期に断水が続いた場合の生活は、この地域では経験がないと思いますが、3・11の時を再度
思い出して対策を提案します。

今回の断水という課題だけでなく、今後の大災害時の「自助」「共助」「公助」を考える上での提案
です。個別の住宅環境は違いますので、参考として考えて下さい。

「日常」「非日常」を分ける意味はありません。日常の生活の中にBOSAIがあり、新しいライフスタイルを
実践することが求められています。

以下は、これまでの経験での紹介ですので、参考にさせていただければと思います。

① トイレの種類で水の量が変わります。スマートなトイレは厄介？

トイレによっては形が異なりますが、便座の後部にタンクがある場合は内部にボトルを入れて節水が可能
です。トイレの1回の「大」の流量は約10L前後、これを8L前後にすると2Lの節水、1日5回使用で10Lの
節約です。月・年間でどのくらいの節約になるか計算して下さい。



② 水は重いです。10Lは10Kg、これを持ち上げられますか？

お勧めは4Lの取っ手付きのボトルです。これをトイレに置くだけで安心感が出ます。



よく見かけるボトルですが、このサイズが
使い易く、軽トイレでの給水だけでなく
普段から入替しながら使用できます。

**「油断」よりも「水断」
お風呂は我が家の貯水庫**



③ 非常時に室内で水を貯められる所・・・それはお風呂です

約200Lの水があれば、トイレで使用する水の20回以上です。もし、風呂場の外に同じように
200L程度のタンクがあれば、自助・共助で乗り越えられるものと思います。

「超高齢化社会の大災害時代」を生きる私たちの「生きる力」「考える力」が試されています。

・・・次の大震災への訓練は続きます。・・・